



— 「としょかんぽう」30号を祝して —

図書館長 星山 幸男

小さな情報誌「としょかんぽう」を楽しみにして下さっている読者は、学内にたくさんおられます。そして内容の充実のために、多くの教職員の皆さんのご協力に支えられていることを感謝しています。一口に30号といっても継続するのは大変なことで、ここまで続けて来ることができたのは、皆さんのご理解と本誌をまとめようと頑張ってきた館員の熱い思いの賜物です。

私も「ブックレビュー」や「図書館員からのおススメ本」コーナーなどを毎号楽しみにしています。学内の先生方がそれぞれのご専門の立場あるいはご関心のある分野から味のある紹介をしてくださり、なるほどと頷いてしまう発見がいつもあります。また、図書館員お奨めの本は、いつも本と格闘している職員ならではの視点から取り上げる側面に興味を感じています。

今、図書館に期待される役割も大きく変わろうとしています。図書館は、本と向き合える場であるのはもちろんですが、さまざまなコーナーの利用、独特の空気の中にいる心地よさに浸ったり寛いだり、図書館との接し方の幅が利用する人の心にそって広がっています。図書館のこんな利用の仕方・楽しみ方もあるのかと記事が気づかせてくれることが少なくありません。

本誌は、図書館情報をソフトに提供し、図書館を利用する人のための案内情報源となることを目指して発行されていますが、学生と教員と大学職員と、そして皆さんを支援する図書館員とを「つなぐ」場として、今後もこの「としょかんぽう」がちょっとした驚きと思わず微笑みたくなるような瞬間を届けてくれることを願っています。



東北福祉大学図書館報「としょかんぽう」No.30 2019年12月  
編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1  
TEL:022-717-3309 FAX:022-717-3309  
E-mail: etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp  
http://www.tfu.ac.jp/libr/

# としょかんぽう

東北福祉大学図書館報  
Tohoku Fukushi University Library News

No.30

TFUL News  
2019 Dec

TFU \* library

## ◇ Table of Contents ◇

- ❖ ブックレビュー 1-2  
“忘れた頃にやって来る” 災害の被害者にならないために  
教育学部教育学科初等教育専攻  
水野 康 准教授
- ❖ ガタピシ 3  
エキサイティング！ H1 グランプリ
- ❖ わたしの本棚 4  
心を彩る、世界の言葉  
キャリアセンター 田鎖 りえ
- ❖ 図書館エトセトラ 5  
楽しんで読んでもらうために
- ❖ Library Events 2019 6  
思いっきり本を選ぼう！ 本屋へ行こう！ 2019 ♥
- ❖ としょかんぽう 30号 7  
「としょかんぽう」30号を祝して  
図書館長 星山 幸男

## ブック レビュー

### － “忘れた頃にやって来る”

災害の被害者にならないために －

教育学部 教育学科 初等教育専攻  
水野 康 准教授

本書は、米国での貿易センタービルへの航空機テロをはじめ、巨大台風、津波、航空機の事故、火災、無差別銃撃事件など、様々な大災害に遭遇した時の人の反応や、生き残った人の行動、および、生き残るための留意点をまとめたものである。大災害遭遇時の人の反応は、①否認：自分が大災害に巻き込まれているはずがない、②思考：自分が災害の渦中にあることを認識し、どうすべきか考える、③行動（決定的瞬間）：考えを行動に移し、生死を分かち決定的瞬間を迎える、という一連の流れがほぼ共通してみられるという。様々な事例が紹介される中、一貫して読み取れるのは、事前の訓練と防災知識修得の重要性である。

印象深い一文として、「私たちは、捕食者から逃れるために進化したのであって、空に400メートルもそびえる建物から脱出するために進化したのではない。」がある。災害時の行動は先天的にインプットされていない。現代社会で生活し、発生する災害から生き延びるには、防災知識を学び、訓練を体験する必要がある、これらを軽んじたところで大きな被害が発生する。10月12～13日に日本上陸した台風19号の死者は80人を超えるものとなった。2005年、米国で2000人近くの死者を出したハリケーン・カトリーナの際は、①否認により、避難の遅れた住民が犠牲となった。カトリーナの犠牲者は高齢者が多く、1965年、1969年に襲来した、より大きなハリケーンの生存者が多かったという。勢力だけに注目したハリケーン経験者は、度重なる避難指示に従わなかった。ところが、1970年以後の地域開発により、周辺の湿地帯が取り払われ、高潮を防ぐ自然の防波堤が無くなったため、これら犠牲者を出した水害が発生した。このように、

過去の経験が的確な判断を歪める事例にも注目したい。

身近で大切な防災知識は、避難経路の認識である。職場やホテルなどの建造物や航空機など多数が過ごす場所では、避難経路の情報・知識が無いと、間違った方向への避難、集団パニック、極端に遅い行動などで、限られた生き残るための時間を浪費してしまう。本学学内も注意すればあちこちに避難経路図が掲示されており、確認することをお勧めする。大学や自身の居住地近辺のハザードマップ（仙台市は [https://bosai-cdn.itp.ne.jp/uploads/pdf/1910\\_0300\\_sendai\\_miyagi2.pdf](https://bosai-cdn.itp.ne.jp/uploads/pdf/1910_0300_sendai_miyagi2.pdf)）も確認して欲しい。国見キャンパス、福聚殿裏の門からJR東北福祉大前に向かう道で、薬局を過ぎ、信号を右折するあたり一帯の右手は墓地で、ハザードマップ上では、土砂災害特別警戒区域（赤）・警戒区域（黄）・危険箇所（橙）の3色に塗り分けられている。東日本大震災の時、薬局に近い所の石垣は道路側に盛り上がり、その後、石と石の隙間にコンクリートが埋められて補強された。最近、コンクリート部分にひびが入り、また盛り上がってきたようにも見えたが、10月の台風でさらに盛り上がっていないだろうか。

本学は、防災士の養成や被災地でのボランティア活動、リエゾンゼミ I での防災訓練など、災害対応の学習・体験機会が多い。これら体験と照らしながら読むことで、災害対応能力が大きく向上することが期待できる。序章、全8章、結論と読み応えのある分量だが、章ごとの拾い読みでも十分役に立つ。

『生き残る判断生き残れない行動  
災害・テロ・事故、極限状況下で心と体に何が起こるのか』

筑摩書房 ちくま文庫  
アマンダ・リプリー著 岡真知子訳

所 在： 学生閲覧図書  
請求記号： 369.3/リフ/学閲



## ガタピシ

### － エキサイティング！H1 グランプリ －

「おまえも死ぬぞ」。「はい、いつかは必ず・・・。」と思いつつ衝撃をうける一言である。これはお寺に設置してある掲示板に書かれている面白かったり、心に沁みたり、思わずハツとさせられたり

するような文言を集めた一冊『お寺の掲示板』に掲載されているお言葉の一例である。日ごろ素通りしそうな言葉も、その時の精神状態や成長の度合いによって感じ方も変化する。まさに言葉は、毒にも薬にもなり得る‘変化身（へんげしん）’である。

さて、「H1 グランプリ」ってご存知だろうか？お寺にはつきもの？のアレである。H？H・・・、HOUWA、そう法話！のことなのだ。「法話」とは、広辞苑第7版によると「仏法に関する話」とあるが、僧侶や住職が私たちの身の回りの出来事と仏法や仏様の教えをからめながら、生きていくうえで大切なことを教示してくれる貴重な機会といえるだろう。そのとおき

おきの法話を、各宗の僧侶が参加者に向けて制限時間 10 分で語りバトルする「H1 法話グランプリ」が、真言宗の須磨寺（神戸市須磨区）にて 2019 年初開催されたのだ。そして法話を聞いた審査員と参加者が、‘もう一度会いたくなかった僧侶’に投票するというもの。ビブリオバトルの法話版とも言えるエキサイティングな企画、私もライブで聞きたかった！

浄土真宗大谷派の‘ひのう姉妹’師をはじめ今回エントリーした 7 組は、宗派を超えて歌あり紙芝居ありの熱い法話バトルを繰り広げ、初代 H1 法話バトルもう一度会いたくなかった僧侶’に選ばれたのは、曹洞宗長楽寺の住職、安達瑞樹師となった。気になる方は、当日のバトルの様子を記録した動画を参照されたい。

2018 年刊行の『気になる仏教語辞典』、もし今後改訂版があるのであればきっと「H1 グランプリ」が入るのは間違いなしと期待している。それから来年の学園祭、‘TFU「H1 グランプリ」なんていうのもなかなか面白い企画だと思うのだが、関係者の方いかがでしょうか！？

（雑誌係：八巻 千穂）

※ガタピシ：仏教語で「我他彼此（ガタピシ）の見」のことで、違うように見えても一つであるという仏教の教え。



### － 心を彩る、世界の言葉 －

「この気持ち、なんて表現しようかな・・・」。心の中の思いや感動をそのまま言葉で伝えるのはとても難しいことです。思い当たる言葉はあるけれど、その一言じゃ収まり切れなかったり、ニュアンスが違ったり・・・。そんな経験ありませんか？そんなとき、世界の言葉に目を向けてみたらいかがでしょう。

自分の気持ちを代弁してくれていて、しかも情景が思い浮かび、更に、一言で表現できている言葉があるかもしれません。この本の中で一番注目してほしい点は、世界の言葉の紹介はもちろんですが・・・「翻訳者、前田まゆみ氏」の日本の文化にあつたやわらかい日本語の文章表現です。目に浮かぶ情景を短い文でまとめています。例えば・・・

☆恋に落ちました！ただ「スキ」というには軽すぎて・・・「アイシテル」では重すぎて・・・。

そんな時にノルウェーではこの一言！ → 「FORELSKET（フォレルスケト）」前田氏が表現した文章は →→→→「語れないほど幸福な恋におちている・・・」ですって♡。 はたまた・・・こんな言葉も。

☆な～んとなく、いぢわるな空気。居心地悪いな～と感じるときは →

「GRASWEN（グラスウエン）」ウェールズ語。

前田氏の訳は →→→→「青いほほえみ」皮肉であざ笑うようなほほえみのこと・・・。

どうですか？なんとなく情景がイメージできますよね。我々の言語、日本語も紹介されています。「WABISABI（侘びさび）」や「KOMOREBI（こもれび）」など、皆さんなら外国人にどのように説明しますか？前田氏の感性あふれる素敵な言葉の訳し方に、日本語の美しさにも気づかされることでしょう。誰かとコミュニケーションをとる時、私たちは無意識のうちに相手の置かれている状況や環境、タイミング、感情、性格、信条などあらゆる情報を探っている気がします。その結果、自分の思いをのせるのは、やはり「言葉」です。今のあなたの思いにピッタリな言葉は、世界の言葉に目を向けると見つかるかもしれませんね。

1 ページ 1 ページ、挿絵と鮮やかな色使いが言葉を美しく彩り、読み手側の感情によって様々な物語が溶け込んでいるように感じる一冊です。秋の夜長、ぜひ、好きな飲み物とご一緒にいかがでしょうか・・・。

（キャリアセンター 田鎖 りえ）

## わたしの 本棚



『翻訳できない  
世界のことば』

著・イラスト：  
エラ・フランシス・サンダース  
訳：前田まゆみ  
創元社

所 在： 学生閲覧図書  
請求記号： 804/サン/学閱

## Library Events 2019

### － 思いっきり本を選ぼう！ 本屋へ行こう！ 2019 ♥ －

「読みたい本とか、欲しい写真集とか金額を気にせずに思いっきり選ぶことがでたらなあ〜」、人生で一度はしてみたいことリストの一つに挙げられるかもしれない。そんな夢のような図書館企画、

参加したくなっただしょ？

今年で7回目をむかえた「本を選ぼう！本屋へ行こう！選書ツアー2019」は、学部学生を対象に、実際に仙台市内の本屋さんへ出向いて、参加学生自らがみなさんに読んでほしい本や図書館に所蔵してほしい本を選ぶという企画。今回は学園創立記念日である9月25日に、4名の学生がじっくり時間をかけて約40冊の本を選んだ。休憩も忘れるほど熱心に、そして楽しんで本を選んでいる様子は、キラっとした清々しい秋晴れの空のようであった（本当です！）。

さて、どんな本を選んだのか少し紹介しよう。学部や学科の教育内容に沿った図書として『これからの情報科学』や『長谷川博之の「学級通信」365日全記録』（上・下巻）、また時事問題や社会情勢を反映した『パワハラ防止のためのアンガーマネジメント入門』や『＜情弱＞の社会学』など、社会の潮流を敏感に感じ、学習に真剣に取り組んでいる感じが感じられた。その他、ライトな読みものとして今話題の前田裕二著の『メモの魔力』や最果タヒのエッセイ集『きみの言い訳は最高の芸術』などバラエティーに富んだラインナップとなっている。それぞれ選んだ本から1冊を選び、ポップを作成してもらい館内で展示を行った。

図書館運営に学生の声を直接反映できる貴重な機会であり、参加学生からは、「自分の気になる本が選べて幸せでした」や「参加しなければ出会えなかった本と出会えて良かった」など、主催者側としてうれしい声も聞くことができた。来年も開催予定！学生のみなさんの積極的な参加を待っています！

（雑誌係：八巻 千穂）

本を選んでいる学生の皆さん



ジュンク堂書店仙台TR店協力

### － 楽しんで読んでもらうために －

今回の「としょかんぼう」いかがでしたか？ブックレビューに水野康先生、わたしの本棚には、キャリアセンターの田鎖りえさんに、お忙しい中ご寄稿して頂きました。誠にありがとうございました。

紹介頂いた本は、12月下旬ぐらいから1か月程度、図書館3F入口付近に展示予定です。通りかかった際は、ぜひ手に取ってみてください。

早いもので30号を迎えた「としょかんぼう」。毎回どんな記事にするか広報WG内で案を練り、「ブックレビュー」を寄稿して頂ける先生や「わたしの本棚」の記事を書いてくださる職員を探したり、面白いネタを図書館員が記事にしたり…、と楽しんでもらえるよう努めています。

レイアウト担当の私は、素人なのでレイアウトに四苦八苦。チラシやポスターといった広告などの編集に関連する本を読むと、見出しの文字の大きさは統一し、見出しの文字と文章の文字の大きさに差をつけたり、行間を調節したり、読みやすく配置しているのがわかりました。出来上がった原稿を各コーナーに配置したあと、記事に合うイラストや関連する写真を入れていきます。読み手に伝わりやすいよう、色々な素材も参考にしつつ、写真、絵、文章の配置を考えながらレイアウトに取り組みます。「としょかんぼう」の用紙は、22号までA4サイズでしたので全体的に小さくなる事もありました。そこで23号以降、A3サイズに用紙を変更したことで字も大きく、より読みやすくなりました。

晴れて出来上がった「としょかんぼう」は、図書館内の各カウンター前のほか、ステーションキャンパスの3F事務室前、ウェルコム21・2Fの分室でも手に取ることができます。「としょかんぼう」の感想や意見など学生や教職員の皆さんからぜひお聞きしたいと思いますので、五十嵐と書いてあるネームプレートをかけた私に学内や図書館で出会ったら、気軽に声をかけてくださいね。ブックレビューや本の紹介の記事を書きたいという積極的な希望でも構いませんよ。これからも「としょかんぼう」をよろしく願います。

（総務係：五十嵐 智子） 6

## 図書館 イトセトラ

